

# 共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np



登山 万佐子

私の娘綾美(8)は誕生から半年間、大学病院の新生児集中治療室(NICU)で過ごしました。退院後は月1回、大学病院の小児科と眼科で定期検診を受けることになりました。夫は仕事を休めず、通院は全て私一人。小さ過ぎる娘がチャイルドシートの中で安定するよう詰め物をして、病院まで1時間、ドキドキしながら運転しました。

退院の翌週、最初の検診は初めて大勢の人がいる場所で長時間待ったので、何かに感染しないか、びくびくしていました。眼科の検診を廊下で待つ間、動かないようにバスタオルにくるまれ、眼底検査を受ける娘が泣き叫ぶ声が聞こえてくるたびに、涙が止まらな

## 予防注射にも一苦勞

ときでも、乳幼児健診と予防接種の予定を立てるのは一苦勞。子どもが熱を出して予防接種の予約を入れ直した経験のある方も多いと思います。

さらに、早産の赤ちゃんは二つの月齢で考えなければいけません。実際に生まれた日から数える「月齢」と、出産



退院後のお祝いの席で。右から登山万佐子さん、生後7カ月の長女綾美ちゃん、長男

う予防接種と乳幼児健診を受けたらいいか迷いました。筑紫野市では3歳児健診以外の健診と、全ての予防接種は地域の小児科で個別に受けることになっています。娘が生まれた大学病院は地域外のため、地元で小児科を探さなければいけません。幸い、長男のICU勤務経験者だったので、乳幼児健診だけでなく、

予定日から数える「修正月齢」です。娘の場合、予定日より4カ月早かったので、退院時の月齢は6カ月、修正月齢は2カ月になります。発達や成長の度合いは修正月齢で考えますが、予防接種は月齢で受けるのが一般的です。最初はそんなこともよく知らず、と

ちよつとした風邪でもお世話になりました。大学病院に情報提供書を書いてもらい、生まれたときからの状況を知ってもらいました。

ただ、信頼できる小児科でも、予防接種は、出生時の在胎週数と体重、既往歴をみると、リスクが高いので無理」と言われてしまいました。紹介されたのは、自宅から車で約1時間かかる総合病院内の予防接種センター。基礎疾患などがある人のための予防接種専門外来です。通わなければならぬ病院がまた一つ増えました。3歳までの予防接種は全て、この病院で受けました。息子の幼稚園の送迎や行事にも追われながら、退院後の数カ月はあつという間に過ぎ去りました。「無我夢中」という言葉がぴったりでした。(「N」子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)